

ふくしま 再生 短信

2020/10/11 葡萄園収穫研修同行記

東 和 町 ヤマソービニョン Yama Sauvignon

2020年10月11日午前10時半、ブドウ園チーム一行6名
(リーダー・小原壮二さん)
はブドウ収穫の研修を受ける



(写真上から) 手慣れた小原さん。神妙な中町さん。経営する民宿「くまさん」前の熊谷さん。

ため福島県東和町(現在は二本松市に併合)の農家を訪ねた。一行の内三名(高木浩子さん、二宮克彦さん・康剛さん父

子)は本田和弥さん、他の三名(小原さん、中町芙佐子さん、若林)は熊谷耕一さんの農園へ。作業は専用の「ぶどう

鋏」を使って行う。ぶどうの房は一本の茎についているので房を片手で支えながらもう一方の手を使って茎をカットし、収穫用の籠に入れる。この繰り返し。収穫し



(写真) たわわに実る東和町のブドウ園



(写真) 赤ワイン「一慶」

た品種は赤ワイン用の「ヤマソービニョン」、フランスの令嬢と日本の山男の結婚で誕生した(山梨県御坂峠に自生していた山ブドウと仏産「カベルネ・ソーヴィニョン(高級品種)を交配)。

東和産の赤ワイン「一仁」と「一慶」はヤマソービニョンの名作。

2013年9月、大震災の2011年に植

えたぶどうの初収穫、ワインの初仕込み。14年のワイン出荷から7年目。当初のブドウ農家は8軒、今10軒を超える。ワインとシードル製造「ふ

くしま農家の夢ワイン(株)」は12年設立、本田さんと熊谷さんは同社取締役。研修を無事終了した風と土の家の夕食、東和のワイン農家に一同感謝の念を込めご褒美の「一慶」

を賞味させて頂いた。(文責・撮影:若林一平)



(写真上から) 収穫したブドウ籠。風と土の家の夕食一密防止の透明衝立は佐野隆章さんの労作。

飯館の銘酒へ

震災から7年目の2017年収穫の宗夫さんの酒米「夢の香」から2018年誕生したのが「不死鳥の如く」、生酒の美酒はすでに堪能したみなさんも多いことであろう。2017年は忘れられない「7年目の真実」の年になりました。

2018年には佐須地区の酒米農家も増えて翌2019年には純米酒「復興」誕生。再生への願いを込めた農家のみなさんの総意で命名された。ラベルは虎捕山。

銘酒の仕込みについて。一貫してお世話になっているのは寛政二年(1790)創業・喜多方の大和川酒造店、会長は九代目佐藤彌右衛門さんである。

2019年には宗夫牧場と芳子さん畑でワイン用のブドウの試験栽培が始まった。来年2021年の初収穫が待ち遠しい。



(写真) 佐須のふくしま再生の会事務所前の宗夫さん、「復興」で一献!

ふくしま 再生 短信

2020/11/14-15 栃木県立大田原高等学校スーパーサイエンスチーム 来村



サイエンス 科学と対話

2020年11月14/15日、栃木県立大田原高校生徒12名が植木淳校長と加藤信行教諭・磯(いそ)慶彰教諭引率のもと来村。同校は2019年からスーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定校。スーパーサイエンス部一行12名が実習参加。<ドロえもん博士>こと東京大学大学院農学生命科学研究科教授・溝口勝さんが母校後輩に2020飯館実習を企画し実施支援。

1日目・14日13時、雲ひとつない快晴の下開講式にふくしま再生の会理事長・田尾陽一さん、副理事長・菅野宗夫さんが出席(写真1)。最初の取組みは佐須老人クラブ前会長・菅野永徳さんの農園で里芋掘り(写真2)。次いで放射線測定用とおやつ用に包丁入れ。測定小屋では小原壮二さんの作物放射線測定講習(写真3)とデータ解析(写真4)。埋設土壌の放射線測定は博士直々の指導、フィールドで溝口式「紙芝居」が威力発揮(写真5)。夕暮れ迫る中、佐野隆章さん指導下宗夫牧場で最大放射線量の探索ゲーム(写真6)。イノシシカメラ設置後宿のきこりに移動。夕食後ドロえもん放射線クイズ大会。表彰式後飯館



写真7：村長・杉岡誠さん(右)と生徒たちの対話

村村長・杉岡誠さん講演は「農」の再生、「ワクワクする村に」(写真7)。

2日目・15日、8時半松塚土壌博物館へ溝口館長と(写真8)、復興の象徴＝牛たちの真中で(写真9)。比曾で農業委員会会長・菅野啓一さん「居久根を自力で除染し土壌の放射線下げ、天明の飢饉7千人亡くなるも村捨てず、飯館の記憶みなさんの人生に役立てて」(写真10)。最大放射線探索ゲーム継続。分断の象徴・長泥ゲートへ(写真11)線量測定も実施。小宮の花仙人・大久保金一さんにコルチカム株分けの極意教わる(写真12)。佐須に戻り総括対話集会、明治大学「次世代養液土耕システム」に取組む宗夫さん事業ハウスで(写真13)。宗夫さん「出会いから行動へ来年も来てください」。田尾さん「若い頭脳の選択能力で地球減ぼさないように」。溝口さん「脳と体の実践知を」。スーパーサイエンス自然科学班長・高2・二瓶混介さん「村のいま、膚で知った」教諭・加藤信行さん「村の現状と課題、生徒自身の目で見ることができた」。ぬける青空、若人達に幸あれ。(文責&撮影・若林一平)

ふくしま 再生 短信

2020/11/22 < 学び舎 irori > 火入れ式

❖ 甦る希望の炎 ❖

2020年11月22日午前10時、福島県相馬郡飯舘村佐須に完成した< 学び舎 irori > (施主：認定NPO法人ふくしま再生の会、運営主体：合同会社虎捕の郷)の火入れ式が山津見神社宮司代務者・加藤啓介さんを迎え厳かに行われた。



火入れ式は建物が完成したときに未長い安全を祈願し行われる神事である。学び舎 iroriはこの日、南面のテラスに佐須小学校の建具設置が完了、晴天下美しい完成像を披露するに至った(写真1)。

教室黒板前の囲炉裏の周りには佐須老人クラブのメンバーを始め、再生の会会員も多数参集(写真2)。お神酒として神前に供えられたのは佐須の酒米から誕生した「不死鳥の如く」と「復興」(写真3)。降神の儀に続きお神酒による清めと祓い(写真4)。そして愈々火入れの儀、火の神様から頂いた種火を施主代表・田尾陽一さん(ふくしま再生の会理事長)の手に



より囲炉裏へ、勢いよく着火(写真5)。玉串奉奠(たまぐしほうてん)＝参拝は、虎捕の郷代表社員・佐藤公一さん(佐須老人クラブ会長)、佐須老人クラブ前会長・菅野永徳さんほか。昇



神の儀をもって式は10時半恙無く完了。この後老人クラブを中心に永徳さんのお花畑で記念撮影(写真6)。公一さん「安全に長生きできるように施設を利用したいと思う」。

健康・医療ケアチーム(チームリーダー・中町美佐子さん)は学び舎 iroriにおける活動再開に向け、火入れ式のサポート役を一貫して担いこの日を迎えた。プログラムのスタートは囲炉裏での内科医・相澤力さんの恒例の健康講話

(囲み記事)。風と土の家のロビーでは、足湯・爪切り・フットケアが和やかに行われた(写真7)。その間、式の参加者に地元野菜たっぷりの昼食が振舞われた(写真8)。中町さん「いい記憶あればこそ、手応えありました、コロナの最中ですが寄りたいなあという気持ちが伝わってきました」。午後2時、灯った温もりを抱きつつ一回家路に着いた。(文責&撮影・若林一平)



相澤ドクターの炉端講話 COVID-19

相澤ドクターの健康講話が新装なった炉端教室での初授業。



テーマは COVID-19 = 新型コロナウイルス感染症 (SARS-

CoV-2感染症)。コロナウイルスSARS-CoV-2は最終的に血管系や腎臓、そして脳にも入り込むのでこれまでの風邪とは全く異なる。免疫力の弱い人ほど重症になりやすい。つまり感染は同じでも重症になる割合が違う。加えていまだ決定的な治療薬は見つかっていないしワクチン

も開発途上である。家庭でも換気・加湿の重要性を指摘。マスクの使用は飛沫感染対策の他に微量感染による免疫力の獲得、鼻腔・口腔の湿度の維持という重要な役割がある。健康的生活がDNA修復能力を高めるといふ、この日の大切な学び。

ふくしま 再生 短信

2020/12/10 田尾陽一 『飯館村からの挑戦—自然との共生をめざして』 上梓

共生への限りない問いの始まり ❖ 道なき道へ ❖

2021年2月21日午前、飯館村在住・田尾陽一さんの近著『飯館村からの挑戦—自然との共生をめざして』（筑摩書房2020、以下本書）にある散策に同行。（中央囲み記事）



2011

2011年6月6日、一行16名は津波の瓦礫で埋まる松川浦から全村避難の飯館村・菅野宗夫さん宅へ。例年は田植を終え緑と水の絨毯で覆われる田圃は村中一面土色の乾いた荒野と化していた。「・・・この状況では私たちにできることはないだろうという考えが私の頭をよぎり表情に現れた。その疑問にすぐ反応した宗夫さんは、このメンバーが今後来村するなら、避難先から・・・村に戻り・・・その場で協働することを確認した。ふくしま再生の会の誕生の瞬間だった。」（本書、059-060頁）

2012年5月、荒野の再生に向けた試験栽培は田尾さんの熱意と機敏な行動が幾多の綱渡りの協力を呼び、農水省・農研機構との協働の形で第一歩へ。「・・・除染と試験栽培を切り離すという私の提案で研究協定内容の合意が得られた」（本書、154頁）



2012

2013年4月1日早暁、村民の心の故郷・山津見神社焼失、宮司夫人が犠牲に。「・・・失われた山津見神社の貴重な狼の絵の復興プロジェクト・・・東京藝術大学大学院文化財保存学の荒井経先生の指導のもと・・・本格的修復が行われ、2016年10月新拝殿の天井に取り付けられた。」（本書、026-027頁）



2013

2014年「・・・8月頃、スズキエブリイ2台を、本会の横田捷宏（かつひろ） 監事の知人であるスズキ自動車鈴木修会長の一声で安く手に入れ・・・KEKが提供してくれた・・・放射線測定装置を搭載して専用測定装置を開発・・・2020年3月まで・・・各行政区から村民2人、総勢40人が、ふくしま再生の会やいいたて協働社のサポートで・・・測定を続けた。」（本書、119-120頁）



2014-2020

2016年10月23日第13回の活動報告会「これから5年飯館村村民の思い」菅野榮子さん「・・・あの美しい村の再生に老いの身ながら、第1歩を踏み出した。・・・今、その希望の一点を見出すことができました。よっちゃん（菅野芳子さん）と一緒に帰ります（拍手）」（本書、253-254頁）



2016

「私たちは、国会設立の時から健康医療ケアは飯館村にとって最重要課題だと考え・・・仮設住宅で、定期的健康医療ケアサポートを実施・・・」（本書、272-275頁）



2016

2019年5月19日に全国より北川フラムさんが率いる総勢19名が・・・飯館村へ向かった。「・・・昨年（2018年）は、バスを仕立てて1泊2日で大地の芸術祭（新潟越後妻有）を飯館村の人々にみてもらった。・・・石巻や新潟の大地の芸術祭のつながりで複数のサポート活動を行ってきた。・・・アートの手で人に生きる勇氣を与えていることが垣間見えた。」（本書、289-291頁）



2018

自然の中で人間の新しい生き方を創る
「・・・コロナ時代に新しい魅力的な生活のあり方を創造するために、私はこれまでの活動を内包して新しい戦略的なコンセプトを考えてきた。・・・佐須地域に「風と土の家」が建設され（2019年）・・・隣に「学び舎irori」が建設され、2020年10月4日・・・竣工式が盛大に行われた」（本書、283-287頁）



2019

散策の帰路ふと遠望すると木立の間から未来を開く空間群が現れた。KEKとの協働に尽力され遺贈により建設事業に多大な貢献をされた故清水韶光さん（物理学者、1942～2015）（本書、287頁）の笑顔が想い起された。



2021

「私が・・・最後に言いたいことは・・・田中正造翁が100年前に一身をなげうって主張した「山を荒らさず 川を荒らさず 村を破らず、人を殺さざる」真の文明へ、一歩でも具体的に近づく努力をしていくこと。それが21世紀の私たちの道ではないか・・・」（本書、346頁）（撮影・文責：若林一平）

校庭の春 2021



櫓 (やぐら) は残った

校庭の桜並木の合間から望まれる櫓。ここにわれらのお爺ちゃん・故菅野次男さんが、昭和60年(1985年)3月区長のときに有志を募り寄付した「サイレン一式」が設置されていた。「サイレン設置工費一式五拾壹萬円也」の記録あり。

2021年4月10～11日、佐須小の校庭探訪。事前に得ていた菅野永徳さんの情報の通り校庭を囲む満開の桜並木を仰ぐことができた(写真1)。名人の庭師が手入れしたと見紛う枝ぶりである。

写真2を見ていただきたい。右下に校庭に面して佐須小のスズランの校章、



校庭の西方には風と土の家そして学び舎 iroi が静かに佇んでいる(写真3)。

(撮影と文責・若林一平)

中央やや左手には次男お爺ちゃんが残した消防用サイレンの櫓を遠望できる(左の囲み記事参照)。校舎はなくとも学び舎は残る。

